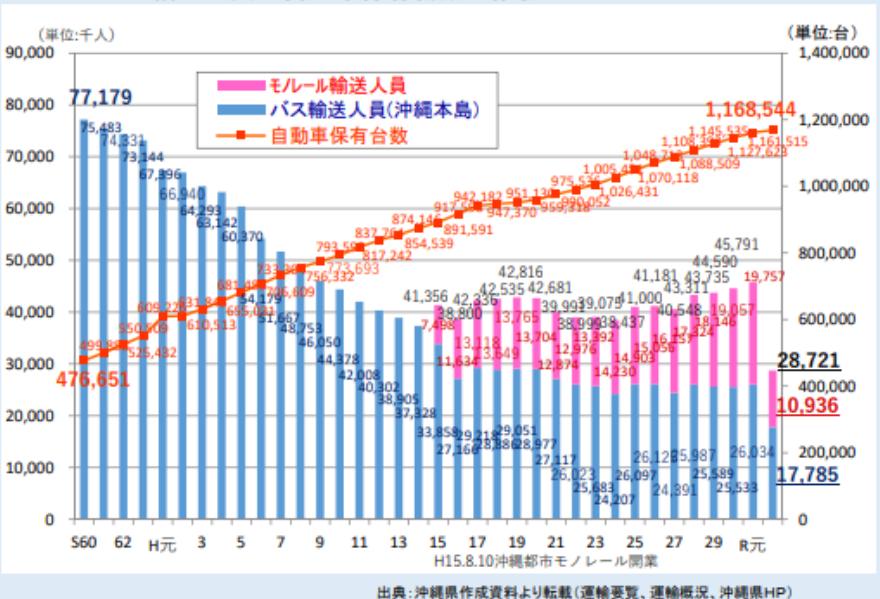


沖縄交通リ・デザイン 今後の取組の進め方

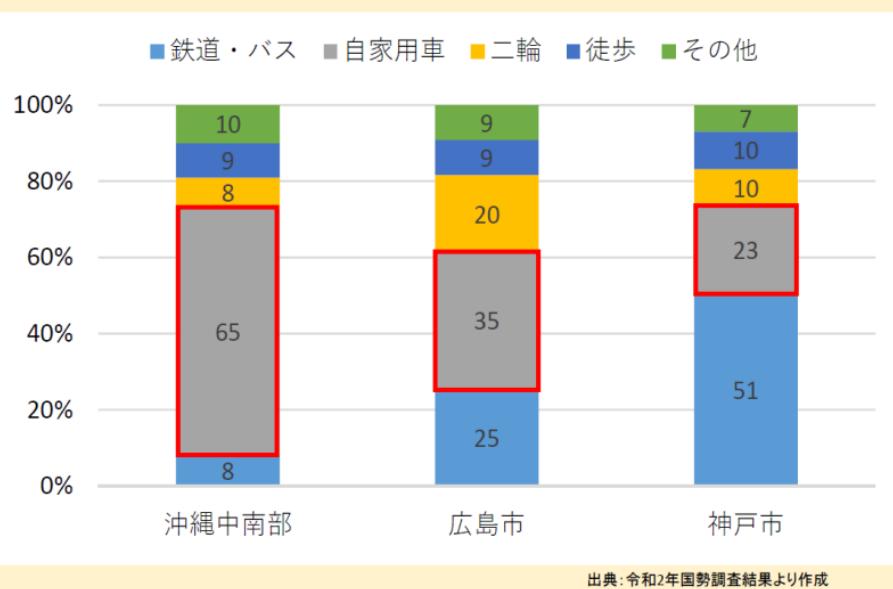
令和6年3月

交通渋滞による損失(生産性の低下)

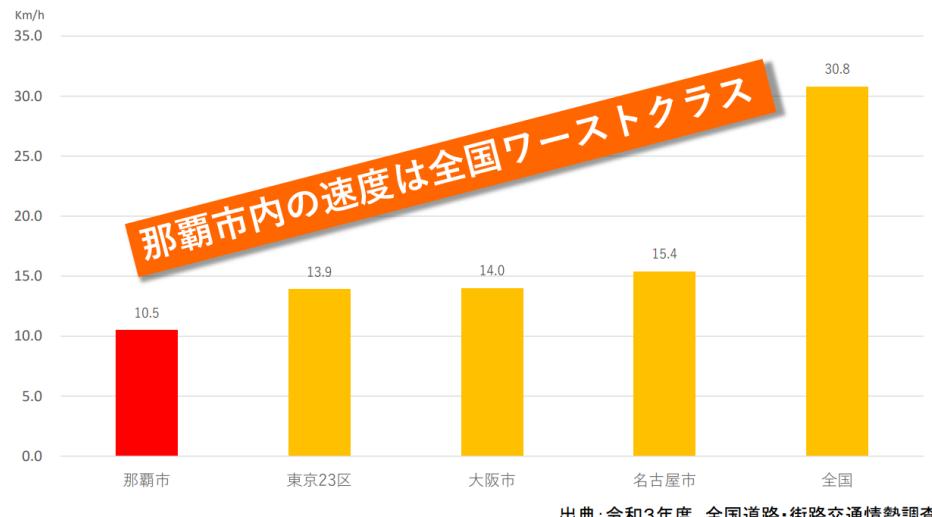
バス・モレール輸送人員と自動車保有台数の推移



通勤通学時の主な交通手段（公共交通分担率）



平日朝夕旅行速度（混雑時旅行速度）



那覇市内の速度は全国ワーストクラス

出典:令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査

沖縄県全体 81,446,875人時間／年

(人口一人当たり 約55時間／年)

うち本島中南部地域 69,080,192人時間／年

(出典) ETC2.0 (2021年1月～12月) データを基に算出

労働力に換算すると、48,515人の労働力(生産年齢人口の5.5%)に相当

(毎月勤労統計調査地方調査(沖縄県)における総実労働時間 139.9時間／月(令和3年平均)を使用)

交通は、生産財として、沖縄の経済、環境、社会の好循環に貢献できているか。
このままでは、むしろ好循環を阻害、悪循環を加速する要因になりえるか。

- 慢性的渋滞の悪化、時間損失



- 公共交通サービスの衰退、運賃上昇



- 自家用車依存、時間損失の更なる拡大

- スプロールアウト。まちのビジネス・生活機能の集積密度低下

- CO2や大気汚染など環境負荷の増加
- 生活環境の悪化

- 駐車場の増加、土地の非効率利用
- 宅地造成と核家族化
- 自然環境、伝統的風景やコミュニティの破壊

- 生産性低迷による所得水準の低下
- 所得・可処分所得の圧迫(エネルギーコスト増×労働時間短縮)
- 低所得層でも自家用車が必要に
- 子供や大人の学ぶ機会や質の高い生活を営む権利の喪失
- 貧困層の拡大、貧困の連鎖加速

生活・社会の質の低下

- 働ける時間の減少と人手不足の深刻化
- 生産活動の縮小
- 勤務・居住地の制約
- 移動・輸送コストの増大と稼いだ富の県外流出増大(車両、燃料など)

ビジネスの質の低下

- 訪れる価値・魅力の低下
- 地域文化の喪失
- 遠方への来訪意欲・可能性の低下
- 実質滞在時間短縮
- 地域内消費の低迷

観光の質の低下

沖縄の未来価値から、セクター統合の方策、そして「移動」を

- 通勤、送迎、買い物、仕事など、車中心のライフスタイルは深く根付き、戦後の経済成長を支えてきた。一方で、そのライフスタイルが、生活、社会、経済活動の質を低下させ、心豊かで持続可能な経済社会づくりを阻害する要因ともなりつつある。
- 人に会い、モノを運ぶ「移動」は、本来、心豊かで包摂性の高い社会を実現し、1時間・1人あたりの生産額の高い高付加価値型経済を実現するための大変な生産財の一つ。重要な地域共通資産。

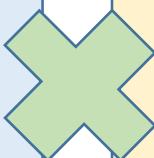
リ・デザインの2本の柱

沖縄のありたい姿 (パブリックインボルブメント)

- ✓ インタビューや意見交換会などの対話を通じ、住民や観光客の潜在意識を掘り起こし。
- ✓ 今の需要ではなく、本当に望む生活や旅行の姿を問いかけ、その実現に必要な交通の形を彼ら自身が選択できるよう対話を行う。



(イメージ)



沖縄に必要なアクション (ステークホルダーの巻き込み(検討会))

- ✓ 経済界や金融機関などを巻き込み、沖縄の社会課題や企業活動に貢献できる交通の形を議論。
- ✓ 住民や観光客から掘り起こした声も踏まえつつ、必要なアクションを検討していく。

経済

金融

観光

交通

エネルギー

行政

幅広い経済界、住民や観光客、地域のステークホルダーとともに、暮らしや企業活動のあり方、それに貢献するまちや移動のあり方を議論し、トータルでのリ・デザインに取り組む。

パブリックインボルブメントの実施

■実施の流れ

第1フェイズ 潜在意識の掘り起こし

沖縄の社会や交通の現状、このままだと直面する課題を提示
将来の沖縄でどのような生活、旅行がしたいか、ありたい姿を問い合わせ

第2フェイズ ありたい姿の実現に向けた問い合わせ

ありたい姿の実現に向けた取組の方向性について、選択肢を示しつつ
問い合わせ

■対面インタビューの実施 【第1フェイズ】

場所	日程
うるマルシェ	11/16(木)
県庁前	11/17(金)
南城市役所	11/20(月)
那覇空港内 (ブース設置)	11/23(木・祝) 11/24(金)
那覇メイン プレイス (ブース設置)	11/24(金) 11/25(土) 11/26(日)

【第2フェイズ】

場所	日程
南城市役所	2/4(日)
那覇メイン プレイス (ブース設置)	2/9(金) 2/10(土)
那覇空港内 (ブース設置)	22/12(月・祝)
具志川メインシ ティ(うるま市)	2/21(水)

多様な意見を聴くため、下記の組織、場所でもヒアリング・インタビューを実施

沖縄県立首里高等学校、南城市民大学、那覇地区老人クラブ連合会、NPO法人バリアフリーネットワーク、公益社団法人那覇母子寡婦福祉会、国頭村、大宜味村、東村(道の駅ゆいゆい国頭、大宜味村喜如嘉集落、東村道の駅サンライズひがし)



【那覇空港】



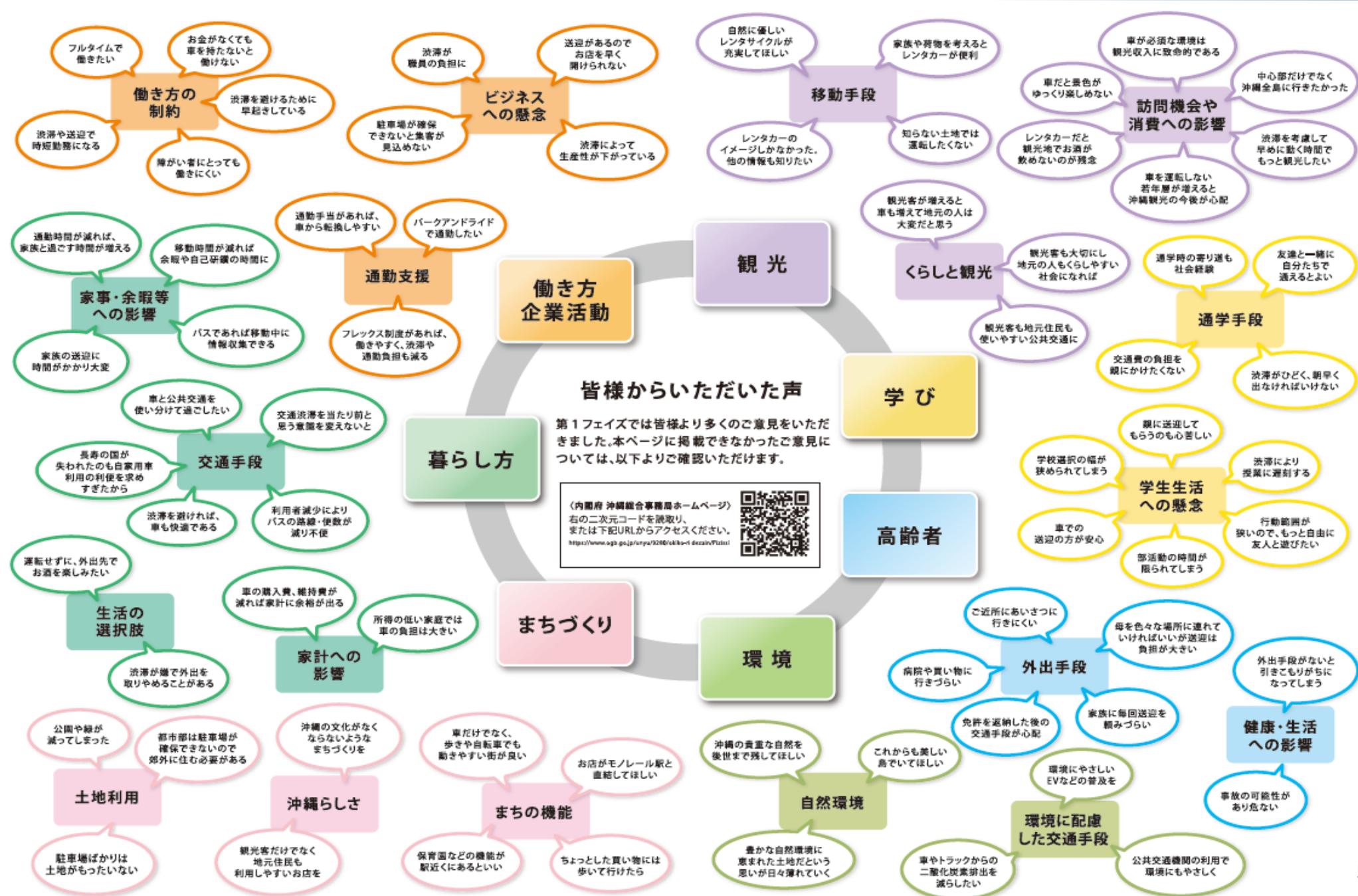
【首里高校意見交換会】



【那覇メインプレイス】



パブリックインボルブメント（第1フェイズ）で得られた声



パブリックインボルブメント（第1フェイズ）で得られた声



50代夫婦
那覇市在住

渋滞がひどく、徒歩でも動ける場所に引っ越した。車がないと生活できないエリアの人口が増加している。皆、渋滞に慣れてしまっているが、暮らす人がもっと考えて転換すべきだと思う。まちづくりも、複雑な大都市を見習うのではなく、バス交通網が充実している、衣食住がまとまっているようなまちを目指してほしい。



40代女性
那覇市在住
子供4人

車の免許を持っておらず、子育てしながらだと、仕事が限られてしまう。また、那覇は地方のわりに物価が高く、車なしで行ける範囲ではスーパーの比較もできないので家計にはつらい。昔は地元向けの小さな商店などもあったがなくなってきてている。昔住んでいたところは住民向けのかき氷屋など小さな店もあり、よく子供と一緒に通っていた。コンパクトで住民も楽しめたし、そこに観光客もいた。
本当はそのような街だといい。



50代男性
那覇市在住
糸満市へ通勤。

道路はできたが、生活圏がただ広がっただけで結局みんな那覇に来る。その結果が渋滞。これでは変わらない。都市計画と交通を一体で考えないといけない。観光も盛り上がっているが、県民に落ちてこない。
本当は地元の人が考えなければいけない。昔、自分たちの地域をどうするか考えるWSを開催していたのが今こそそうした取り組みが必要かもしれない。

【手法自体に対する声】

- P I は住民の意見を吸い上げる素晴らしい取り組みだと思う。
- 普段思っていたことを言う機会があつてよかつた。中々機会がない。
- 住民の声を聞く仕組みがないので話を聞いてくれるのは嬉しい。
- 課題を自分事として考えることが今までなかつた。いいきっかけになった。
- 資料のようなことを考える機会を皆さん持つてほしい。
- どう反映されるかがもう少しあわかりやすいと良い。／強引に沖縄の諸問題を交通と関連付けているような気もする。

パブリックインボルブメント（第2フェイズ）の結果

第1フェイズに得られた声から描き出されたありたい姿については、沖縄らしさを守りつつ、生活や観光、経済の質の向上に資する交通を目指すことについて共感の声が寄せられた。

そのための方向性としては、便利な自家用車を今後も利用したいという声や、公共交通の利便性向上が必要という声もあった一方、自身のライフスタイルを含め全員で交通・社会を変える必要があるとの声が多かった。

＜ありたい姿を実現するための方向性に関する声＞

「C: 皆でライフスタイル自体から変えていく」

- ・ハード面だけを整備しても、個人の意識が変わらなければよい変化は生まれないと思う
- ・現状の生活スタイルでは変化しない。自己中心ではなく皆で行動を起こすべき
- ・今のまま座して待つ状態では効率化が図れないし、一方的な働きかけだけでは何も変わってこなかった
- ・バスに乗ったことがないからBの生活が分からず、でもAだと免許返納したときに困るのが分かっている
- ・ライフスタイルが変われば、買い物など生活が近所で完結するまちづくりが出来るし、環境への負荷も減る
- ・行政と民間の間でうまく役割分担ができれば。民間のフットワークの軽さを活用してほしい
- ・ひとりひとりのライフスタイルを変えていくためには、社会皆の取り組みが必要だと思う
- ・市町村や事業者と一緒に変えていけると良い。使える選択肢が多いと良い

「A: 現在のライフスタイル、交通環境を維持する」

- ・通勤や買い物の移動手段として自家用車は必須アイテムである
- ・各々の組織と個人にとってのメリットがなければ実現は難しいように思える

「B: 行政等が公共交通の利用を促進する」

- ・ライフスタイルを変えるには環境の整備が不可欠で、それには行政による利用促進を先行すべき
- ・公共交通の利便性を向上すれば自然と公共交通を利用したライフスタイルに変化すると考える

⇒自家用車を使いたい方、自家用車での移動ができない方などの意見へも配慮しつつ、交通手段の選択肢が多い社会をライフスタイル、行政・企業・交通一体となって目指していく方向性を確認

パブリックインボルブメント（第2フェイズ）の結果

住民・観光客自身のアクションによりライフスタイルを変えていくという声とともに、それを実現するための企業や行政、交通事業者それぞれに対する期待の声が寄せられた。

＜今後のアクションに関する声＞

○住民・観光客のアクション

- ・公共交通や自転車、徒歩などでの通勤の実践ならできそう
- ・子供にバスで出かけさせてみたい
- ・観光、お出かけに便利な公共交通機関があれば使いたい
- ・たまにはバスを使って移動してみたい、健康のためにも歩いて移動してみたい
- ・まちづくりワークショップなど、交通や社会を考える機会に参加してみたい



○企業・行政に期待するアクション

- ・在宅勤務やフレックスタイムを導入し、柔軟な働き方を認めてほしい
- ・公共交通機関で通学しやすいよう、通学費用の支援を充実させてほしい
- ・レンタカー以外の観光手段の情報発信を強化してほしい
- ・公共交通に触れるきっかけを増やしてほしい
- ・徒歩や自転車で移動しやすいよう、まちや道路を整備してほしい



○交通事業者に期待するアクション

- ・バス、モノレールの路線網・ダイヤを充実させてほしい
- ・乗り継ぎの利便性を向上させてほしい
- ・通学時間帯の便数増加や定期の機能拡充によって、通学に利用しやすくしてほしい
- ・決済手段を多様化し、利便性を向上させてほしい
- ・観光地を巡れるバスがほしい
- ・バスの路線図やアプリなど案内をわかりやすくしてほしい
- ・バス停等の環境を改善し、バスを待ちやすくしてほしい
- ・駅やバスの拠点にまちの機能を集約してほしい

持続可能な沖縄社会の構築に向けて（ありたい姿）

沖縄経済の発展・生産性向上

- ✓ 時間損失が少なく、企業の事業効率が高い沖縄
 - ・朝夕のラッシュがなくなり、移動や輸送が効率化
- ✓ 時間や居住地の制約がなく、誰もが担い手となれる沖縄
 - ・時短勤務などが多くなり、人材が確保が円滑化
- ✓ 環境負荷の少ないサステナブルな企業活動
 - ・移動により発生するCO2排出量の削減に寄与
 - ・渋滞が少なくなり、燃料費などのコスト削減に寄与

～持続可能な沖縄社会の構築に向けて～

互いを思いあう、沖縄らしさを体現し、
住まう人、訪れる人にとっての
沖縄の価値を高め
次の世代に引き継いでいく

選ばれる持続可能な観光地

- ✓ 誰もが訪れたくなる沖縄
 - ・沖縄らしいまちや文化が残り、住民や観光客の交流が生まれる
 - ・車に乗らないインバウンド客や若年層にも旅行先として選ばれる
 - ・環境や社会のサステナビリティに配慮した旅への関心にも対応。
- ✓ 地域内消費の向上
 - ・滞在時間の増加や周遊を通じた訪問・消費機会の増加。
 - ・地域にお金が落ちる高循環の創出。

沖縄らしさの残る豊かな暮らし・まちの実現

- ✓ 受け継いできた沖縄らしさの維持・発展
 - ・豊かな自然や家族を思う文化などを残していく。
 - ・昔ながらのコミュニティや街並みの中で暮らすことができる。
- ✓ 生活の質の向上
 - ・自分や家族との時間を大切にできる
 - ・学生が自立して友人らとともに経験を積むことができる。
 - ・高齢者等であっても送迎や運転に頼らず気軽に外出できる
 - ・歩きやすく、緑地や公園が身近にある健康的な暮らしができる
 - ・人口減少が進む地域でも送迎に頼らず生活できる。
- ✓ 県民の所得・実質所得の向上
 - ・希望する勤務地、時間で働くことができる
 - ・自家用車保有による固定費の削減に寄与

持続可能な沖縄社会の構築に向けた各主体のアクション

来年度以降、企業や個人のアクションを後押しするプラットフォームを構築し、各主体によるライフスタイルの転換に向けた取組と、交通の利便性向上に向けた取組を官民連携の下、一体的に推進。

ライフスタイルの転換

○通勤を変えていく

- ・バス、自転車など通勤手段の多様化
(企業によるノーマイカーデーや通勤手当支給、時差出勤・フレックステ制、テレワーク等の働き方改革等の実践)
- ・経済団体や金融機関等のネットワークを活用した普及啓発の実施。
企業活動への影響やライフスタイル転換の重要性などを共有

○通学を変えていく

- ・学生等に対する公共交通の理解促進
交通と社会課題について学生、保護者、学校の理解を深める取組や公共交通の利用を促す取組を実施
- ・通学に係る交通費支援

○観光を変えていく

- ・多様な移動手段による観光周遊について情報発信
バス・モノレール・フェリー利用や拠点まで移動してからのレンタカー利用など

○モノレールやバスのイメージを変えていく

- ・普段、自家用車やレンタカーを使っている方への体験機会の提供
- ・EVやFCVバス、目を惹くデザインなど魅力度向上

○まちづくりを変えていく

- ・都市構造（まちの核＝交通の核の形成）と都市内・都市間交通ネットワークを形成
- ・歩行環境や身近な緑地公園など車移動を前提としないまちづくり

公共交通の利便性向上

○住民・観光客も使いやすい交通ネットワークを構築する

- ・まちと一体となった交通結節点整備と効率的な路線網の構築
モノレール駅の交通結節点化の検討・バスタッププロジェクト(沖縄市・名護市)の推進
観光次々交通結節点の検討
圏域ごとのネットワークの検討
- ・地域でのデータ活用に資する決済等のデジタル化
データ活用を含めた決済システムのあり方を検討
インバウンド客も使いやすい決済システムの導入促進

○バスやモノレールのサービス水準を向上させる

- ・ダイヤ・ルートの見直し
需要時間帯（通勤・通学時間帯など）に合わせたダイヤの調整
や通学に資するバスルートの調整、利用しやすい料金設定
- ・P&Rと組み合わせた通勤ライナーの運行
- ・モノレール3両化の推進
- ・バスまち環境整備、乗継案内の強化

○送迎に代わる地域内輸送サービスを整備する

- ・地域の事情に応じたコミュニティバス、デマンド型乗合サービス
自家用有償運送などの導入促進
- ・やんばるエリア等での観光客向け輸送サービスの運行

○新たな技術による交通サービスの維持・向上を図る

- ・自動運転の導入に向けた実証

官民連携プラットフォーム

○リ・デザインについて機運醸成を図り、企業や個人の取組を後押し。参加者の取組状況について共有し、更なる展開につなげる。

プラットフォームイメージ

- ・経済界・県・国による官民連携の協議会
- ・生産性向上・QOL向上・観光振興・脱炭素／エネルギー効率化等のため、社会・交通環境の変革を通じた行動変容(自家用車依存のライフスタイルからの転換)を沖縄全員で目指す。

＜取組事業例＞

- ・行動変容に向けた官民共同宣言の発出
- ・交通・まちづくりに関する事業提案、事業具現化に向けたサポート
- ・全県的なパブリックインボルブメントの実施
- ・その他、県民・企業への普及啓発、通勤スタイル転換に取り組む参加企業の拡大 等

＜共同事務局＞

経済界

沖縄県

国(内閣府、沖縄総合事務局)

＜構成＞

経済

金融

エネルギー

観光

教育

まちづくり

交通

賛同企業

賛同企業

…

賛同企業

賛同自治体

…